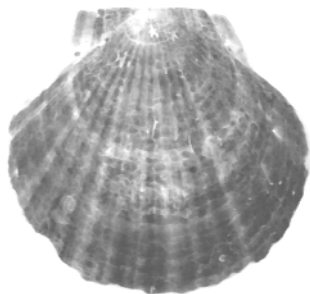


平成 22 年度ホタテガイ採苗通報(第 11 報)

平成 22 年 6 月 23 日



宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場 TEL:0226-27-2700
宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部 TEL:0226-22-6825
宮城県東部地方振興事務所水産漁港部 TEL:0225-95-7914
宮城県水産技術総合センター TEL:0225-24-0130
南三陸町
宮城県漁業協同組合気仙沼総合支所
宮城県漁業協同組合各支所青年部・研究会

稚貝の付着は続いています。

《調査結果の概要》 調査日:6月21、22日

- 採苗器1袋あたりの付着稚貝数は唐桑町只越で1,892個、岩井崎で1,046個、北上町大指沖1,959個と付着が続いています。
- 各地点とも数千個/袋規模の付着となり、このまま殻長1.5cm以上になるまで採苗袋に入れておくと変形率が高くなるので注意が必要です。

表 浮遊幼生及び付着稚貝調査結果

調査地点 (調査月日)	浮遊幼生		付着 稚貝数 (投入日-回収日)	ムサギ ガイ 幼生数
	250ミクロン以下 (小型～中型幼生)	250ミクロン以上 (大型幼生)		
北部地区				
唐桑町只越 (6/22)	4	4	1,892 (6/15-6/22)	50
岩井崎 (6/21)	1	2	1,046 (6/14-6/21)	10
中部地区				
北上町大指沖 (6/22)	—	—	1,959 (6/10-6/22)	—

県外情報

岩手県

6月10日から6月14日の大船渡管内の調査では幼生数は44～494個、付着稚貝数も773～8から9千個/袋/週と各地で付着数が増加、管内全地区で採苗器投入が完了(6月17日発行資料)。

○気仙沼水産試験場の試験研究成果の紹介について

気仙沼水産試験場では、平成21年度から、県内産ホタテガイ種苗の遺伝的な系統と成長特性等を把握するため、唐桑・岩井崎・歌津の漁場で試験研究事業を行っております。その成果の一部について、お知らせします。

- 平成21年5月中旬～6月上旬に上記3海域において、毎週採苗袋を吊して採苗し、8月下旬に採苗袋から稚貝を採取して、気仙沼湾内の静穏域で育成しました。
- 8月の稚貝採取時の殻長は、3海域の採苗群とも1～1.5cmで、10月には各群とも殻長2～3cm、12月には4～5cmまで成長しました。
- 8月の稚貝変形率は、全般的に殻長の大きい稚貝で変形率が高い傾向がありました(下図)。稚貝採取時に大きさが異なっても、10月にはほぼ同じ大きさに成長する結果となったので、稚貝採取は、10mm前後の小さいサイズで行った方が変形防止につながると考えられます。
- 成長試験後のホタテガイ貝柱を用いて、系統を調べるために遺伝子を調査したところ、唐桑採苗群と歌津採苗群の間で、遺伝的な差がある可能性が認められました。

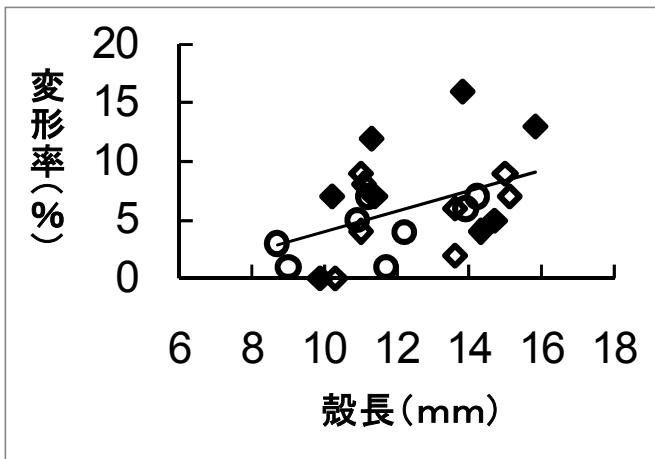


図 群ごとの稚貝採取時平均殻長と変形率の関係

- ：唐桑(只越)採苗群，
- ◆：岩井崎採苗群，
- ◇：歌津(田の浦)採苗群

北部・中部地区ともに、6月上旬よりまとまった付着がみられましたので、今回をもちまして定期的な通報は終了します。御協力ありがとうございました。なお、7月下旬から8月上旬に稚貝の付着状況(付着数)について調査を実施し、臨時通報としてお知らせします。調査の際は御協力をお願いします。